

北陸重機工業株式会社 代表取締役社長

ほりがみ こうじ
堀上 幸二氏

日本、海外の社会インフラを支える オーダーメイドの鉄道車両を提供



PROFILE

1969年生まれ、神戸市出身。大学を卒業後、1991年に極東開発工業株式会社に入社。環境プラント建設に関わる営業部門に長く在籍し、大阪、東京、福岡などに赴任する。2018年、北陸重機工業が極東開発工業のグループ企業に加入し、2021年に取締役として着任。2023年、代表取締役社長に就任。

今年で60周年を迎える北陸重機工業は、日本をはじめ世界各国の社会インフラを支える鉄道車両、特殊車両の製造・販売を行う企業。一貫生産体制を強みとし、開発型企業として社会課題に対応した新技術にも挑戦する堀上社長にお話を伺いました。



北陸重機工業株式会社
〒950-0871
新潟市東区山木戸7丁目3番69号
TEL:025-274-3311
<https://www.hokuju.com/>



“この会社で働いて良かった”と社員が思える企業にしたい。それが、お客様に喜んでいただける商品づくりに繋がると思っています

自社での一貫生産により お客様の細かい要望に対応

北陸重機工業は、松山自動車工業（現：松山重車輻工業）出身の霜鳥勝徳氏が1965年に設立。以来、機関車や保守用車など「はたらく鉄道車両」の製造・販売を行ってきた。

同社は各種車両の設計・製缶・塗装・組立まで社内で一貫生産しているのが特徴だ。「品質を自社で全て管理できること。協力会社に依存しすぎないので、納期の長期化を回避できることが強みです。そして既製品販売ではなく、お客様の細かいご要望に合わせたオーダーメイドであることが、他社との差別化に繋がっていると思います」と堀上社長。さらに1970年から海外展開に着手し、これまで80カ国、約800台の輸出実績があることから、納入先の国で社員が直接対応できる点も差別化になっているという。

脱炭素化のニーズに応える 新しい技術開発に挑戦

「お客様に評価されてきたことが、長く事業を続けてこられた理由の一つです。また、線路がある限り保線作業も必要なため、当社で製造する特殊鉄道車両が求められるという事業環境があること。完成車メーカーとしてニーズを捉えた新しい技術を開発していることも要因だと思います」と話すように、近年は鉄道車両においてもカーボンニュートラルを目指すニーズがあることから、2019年にリチウムイオンバッテリー機関車の開発に着手。2023年に鉄道車両を製造する会社に納入した。「リチウム100%で動く機関車を製造



設計・製缶・塗装・組立・電気配線まで自社で一貫生産しているため、顧客の細かい要望や仕様の変更などに臨機応変に対応できる。



しているのは、私が知る限り国内で当社だけだと思います」。

展示会出展で知名度を上げ 市場拡大や人材採用に繋がりたい

同社の霜鳥雅徳相談役が新潟商工会議所の副会頭を務めていることもあり、「新潟市に本社を置く地元企業として、商工会議所に入会していることで、何かあったときに相談できるといった安心感があります」と堀上社長。

2021年に着任した当時はコロナ禍で、発注の延期や輸出先への引き渡し大幅に遅れるなどの苦労もあったが、2023年に初めて出展した「鉄道技術展」で大型の商談が決まるといった喜びもあったという。「これからもお客様の困りごとを解決する技術開発や電動化を推進していきたいです。また、当社の知名度が低いことを初めての展示会で実感したので、今年11月の鉄道技術展ではより多くのお客様に知ってもらい、市場シェアを広げていきたい。そして知名度を上げることで人材の採用にも繋がってほしいと思います」。

小・中学校や各種団体の工場見学を受け入れるなど、地域貢献にも積極的な同社。今後も地元で誇れる企業として、国内・海外で活躍する鉄道車両を提供していく。



リチウムイオンバッテリーを搭載し、モーターで駆動する最新鋭牽引車を開発。SDGs、脱炭素社会に貢献する新車両として期待されている。